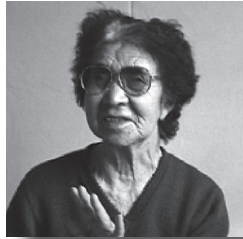


アイヌ民話ライブラリ 2

上田トシの民話 2



アイヌ民族博物館

第4話 散文の物語

ウサギの穂摘み

収録日：1996年9月28日

資料番号：35232A

添付CD：3-4（8分19秒）

第4話 散文説話「ウサギの穂摘み」⁽¹⁾

(ある独り暮らしの男性が語る)

ヤイコアン オッカヨ アネ ヒネ
 yaykoan okkayo a=ne hine
 ひとり暮らしする 男 (私)であっ て

私はひとりで暮らしていました。

プイネ アナン ペ ネ クス
 puyne an=an pe ne kusu
 ひとりで 暮らす(私)もの だ から

ひとりきりなので

エキムネアン ワ イワカン ヤツカ
 ekimne=an wa iwak=an yakka
 山猟に行く(私) して 帰る(私) しても

山猟に行って帰って来ると

ヤイカタ スケアン ワ イペアン コロ
 yaykata suke=an wa ipe=an kor
 自分で 料理する(私) して 食事する(私) ながら

自分で料理をして食事をして

5 アナン ペ ネ ア プ
 an=an pe ne a p
 いる(私) もの だっ た が

いたのでした。

シネ アン タ エキムネアン ヒネ
 sine an ta ekimne=an hine
 ある時 山猟に行く(私) して

ある時山猟に行って

イワカン アクス アウニ ウン
 iwak=an akusu a=uni un
 帰る(私) したところ (私の)家 に

帰って来ると、私の家に

スプヤ アッ² コロ アン ヒネ
 supuya at kor an hine
 煙 立っ て い て

煮炊きの煙があがっていました。

アオヤモクテ コロ ネ コロカ
 a=oyamokte kor ne korka
 (私)不思議に思う ながら だ けれど

不思議に思いながら

10 アウニ ウン アフナン ルウェ ネ アクス
 a=uni un ahun=an ruwe ne akusu
 (私の)家 に 入る(私) こと だっ たところ

家に入って行ったところ

ピリカ ワ オケレ ポン メノコ
 pirka wa okere pon menoko
 とてもきれいな 若い 女性

とてもきれいな若い女性

レタラ コソンテ³ ウトムチウレ
 retar kosonte utomciwre
 白い 上等な着物 を着る

白い着物を着た

- 1 この話は 1996 年 9 月 28 日アイヌ民族博物館のアイヌ文化教室「口承文芸の夕べ」で採録されたもの。解説は本田優子氏。この話の伝承経路については特にコメントがない。
- 2 無人の家に煮炊きをする煙が上がっていたということ。火事になっていたわけではない。
- 3 着物の色についてあえて触れているのは、その着物の色が女性の正体に関係するということを示唆している。

ポン メノコ スケ コロ アン ヒネ
 pon menoko suke kor an hine
 若い 娘 料理し て い て

若い女性が料理を作っていました。

オロ タ アフナン ルウエ ネ アクス
 oro ta ahun=an ruwe ne akusu
 そこ に 入る(私) こと だっ たところ

私が入って行くと

15 オラ イオリパク コロ アニ クス
 ora i=oripak kor an _hi kusu
 そして (私に)遠慮し ながら いる ので

かしこまって

アコオンカミ カ キ ア プ
 a=koonkami ka ki a p
 (私)拝礼し も し た が

拝礼をして

オラ ピリカ スケ キ ヒネ イコイプニ ヒ クス
 ora pirka suke ki hine i=koypuni hi kusu
 そして おいしい 料理 し て (私に)差し出す ので

上手に作った料理を私に出してくれたので

イペアン カ キ ア プ
 ipe=an ka ki a p
 食事をする(私) も し た が

食べたのでした。

オラ ニサッタ ネ アン ヒケ カ
 ora nisatta ne an hike ka
 こんど 翌日 に なっ て も

翌日になると

20 ネウン カ アラパ プ ネ
 neun ka arpa p ne
 どこか も 行く の だ

どこかへ行くのだろうと

クナク アラム ア プ
 kunak a=ramu a p
 ろうと (私)思っ た が

思っていました

ネウン カ アラパ カ ソモ キ ノ アン。
 neun ka arpa ka somo ki no an.
 どこに も 行き も し ない で いる

どこへも行かずにいました。

ラポッケ エキムネアン ヒネ イワカン アクス
 rapokke ekimne=an hine iwak=an akusu
 そのうちに 山獺に行く(私) して 帰る(私) したところ

そのうちに私が山獺に行って帰って来ると

オラ スイ スケ コロ アン ヒネ
 ora suy suke kor an hine
 こんど また 料理し て い て

また食事を作っている

25 ネ イペアン ヒネ…
 ne ipe=an hine…
 それ 食事する(私) して

それを食べていました。

オラノ ケシ ト アン コロ イパロイキ⁴ コロ アン ワ
 orano kes to an kor i=paroyki kor an wa そして毎日私に食事を作ってくれて
 それから 毎日 (私に)食事を作っ て い て

トゥラノ アナヌミ ピリカ
 turano an=an _humi pirka 一緒に暮らすのが心地よく
 一緒に 暮らす(私) 感じ 良い

カ タ オラ スケ エアシカイ
 ka ta ora suke easkay その上料理が上手で…
 その上 に こんど 料理 が上手である

ピリカ キナ ラタシケプ ネ ヤッカ カラ ワ
 pirka kina rataskep ne yakka kar wa 上手に野草の煮物も作って
 上手に 野草の 煮物 で も 作っ て

30 イパロイキ。
 i=paroyki. 私に食べさせてくれました。
 (私に)食事を作る

エアラキンネ アコヤイライケ コロ アニケ カ
 earkinne a=koyayrayke kor an _hike ka 本当に感謝をして
 本当に (私)感謝し て いる しても

オラノ ネウン カ
 orano neun ka それからはどこにも
 それから どこに も

アラパ カ ソモ キ ノ
 arpa ka somo ki no 行かずにいました。
 行き も しない で

エキムネ コロ ウサ キナ ラタシケプ
 ekimne kor usa kina rataskep 山に行って野草や
 山嶽に行っ て 色々な 野草の 煮物

35 ウサ ピヤパ プシ ネ ヤ
 usa piyapa pus ne ya ヒエの穂や
 色々な ヒエ の穂 で も

ムンチロ プシ ネ ヤ コロ ワ イワク ワ
 munciro pus ne ya kor wa iwak wa アワの穂をとって帰って
 アワ の穂 で も 持っ て 帰っ て

オラ ナニ ウタ ワ ピリケプ カラ ワ
 ora nani uta wa pirkep kar wa すぐに杵について精白し
 こんど すぐ 搗い て 精白 し て

ネ ピリケプ アニ ネ ヤッカ スパ ワ
 ne pirkep ani ne yakka supa wa その精白した物を料理して
 その 精白した物 で で も 料理し て

4 パロイキ paroykiは老人や子供など、生活の一切を養うという意味でも使われるが、ここでは食事の支度など日常の世話をし
 てもらったということ。

イパロイキ。

i=paroyki.

(私に)食事を作る

私に食べさせてくれました。

40 エアラキンネ トウラノ アナヌミ ピリカ
earkinne turano an=an _humi pirka
本当に 一緒に 暮らす(私) 感じ 良い

本当に一緒にいて心地が良く

カ タ オラ ヤイコアラキキ ルウエ
ka ta ora yaykoarkiki ruwe
その上 に こんど ひとりで頑張る こと

そのうえ一生懸命働くことに

ポ ヘネ アコヤイライケ コロ
po hene a=koyayrayke kor
なおさら (私)感謝をし ながら

感謝をしつつ

アナン ペ ネ ア プ
an=an pe ne a p
暮らす(私) もの だった が

暮らしていました。

シネ アン タ
sine an ta
ある時

ある時

45 エキムネアン カ ソモ キ ノ アナン アクス
ekimne=an ka somo ki no an=an akusu
山獺に行く(私) も しない で いる(私) したところ

私は山獺に行かずにいて

ネ ポン メノコ カ エキムネ カ
ne pon menoko ka ekimne ka
その 若い 娘 も 山獺に行き も

その若い娘も山へ

ソモ キ ノ ケメイキ コロ アン アクス
somo ki no kemeyki kor an akusu
しない で 針仕事し て い たところ

行かずに針仕事をしていました。

サマ タ ヌイト カタク レタラ カタク
sama ta nuyto katak retar katak
そば に 糸 糸玉 白い 糸玉

糸玉、白い糸玉が

ネ ポン メノコ サマ タ ケム カ
ne pon menoko sama ta kem ka
その 若い 娘 のそば に 針 も

その若い娘のかたわらに

50 エウシ カネ アン レタラ カタク アン ヒ クス
eus kane an retar katak an hi kusu
そこについて いる 白い 糸玉 ある ので

針もついている白い糸玉があったので

ネ ケム プイ ヌイト アウヌ ヒネ
ne kem puy nuyto a=unu hine
その 針 穴 糸 (私)つけ て

その針の穴に糸を通して

ネ ポン メノコ チンキヒ アエウシ ヒネ
ne pon menoko cinkihi a=eus hine
その 若い 娘 のすそ (私)つけ て

その若い女性の着物のすそに縫い付けて

- アナン ルウエ ネ アクス
 an=an ruwe ne akusu
 いる(私) こと だっ たところ
 おきました。
- オラ エキムネ エソイエネ アクス オラノ
 ora ekimne esoyene akusu orano
 こんど 山獵に 出かけ たところ こんど
 その娘が山に行くため外に出ると
- 55 ネ レタラ カタク カラカラセ ワ アラパ ヒ クス
 ne retar katak karkarse wa arpa hi kusu
 その 白い 糸玉 転がっ て 行く ので
 その白い糸玉が転がって行ったので
- オシ アラパアン アクス
 os arpa=an akusu
 後から 行く(私) したところ
 後から追いかけて行くと
- アウタリ トイタパ ヒネ オロ タ
 a=utari toytapa hine oro ta
 (私の)仲間 畑仕事し て そこ で
 村人たちが畑仕事をする畑に行きました。
- ウサ ムンチロ ウサ ピヤパ ピリカ ワ
 usa munciuro usa piyapa pirka wa
 色々な アワ 色々な ヒエ 良くなっ て
 アワやヒエがよく実り
- アウタリ チャ クス パイエパ⁵ コロ
 a=utari ca kusu payepa kor
 (私の)村人 刈り に 行く と
 村人たちが収穫に行くと
- 60 オアリスム セコロ
 oar isam sekor
 全く ない と
 全てなくなっているのだという話を
- アウタリ ハウエオカ… ハウエアン コロ
 a=utari haweoka... hawean kor
 (私の)仲間 言う 言い ながら
 村人たちが言っていたのですが
- モシマノ アナン ペ ネ ア プ
 mosmanoan=an pe ne a p
 かまわずに いる(私) もの だった が
 それを聞いた時はかまわずにいました。
- ネア アウタリ トイエヘ タ アラパ ヒネ
 nea a=utari toyehē ta arpa hine
 その (私の)仲間 の畑 に 行っ て
 その村人の畑に行くと
- ネア レタラ コソンテ ウトムチウレ ア
 nea retar kosonte utomciwre a
 その 白い 上等な着物 を身につけ た
 その白い着物を着た
- 65 ポン メノコ イチャ コアリキキ コロ アン シリ
 pon menoko ica koarikiki kor an siri
 若い 娘 穂摘み に精を出し て いる 様子
 若い娘が精を出して穂摘みをしている様子を

5 パイエ paye はアラパ arpa の複数形なので、そこに pa をつけて複数形にする必要はないように思えるが、実際にパイェパ payepa という用例がある。あるいは「複数人で何度も行く」というニュアンスかも知れない。

アヌカラ ヒ
a=nukar hi
(私)見た こと

見たのでした。

オラ ポロ イセポ ネ ヒネ
ora poro isepo ne hine
こんど 大きな ウサギ であって

それは大きなウサギで

イチャ コロ アン シリ アヌカラ ヒ クス
ica kor an siri a=nukar hi kusu
穂摘みし て いる 様子 (私)見る ので

穂摘みをしている様子を見たので

オラ ホシピ… ナニ ホシピアン ヒネ
ora hosipi... nani hosipi=an hine
こんど 帰る すぐ 帰る(私) して

すぐに帰って

70 アウニ タ アナン ルウエ ネ アクス
a=uni ta an=an ruwe ne akusu
(私の)家 に いる(私) こと だっ たところ

家にいました。すると

シットケシ アクス オラ ネア ポン メノコ ホシピ。
sittokes akusu ora nea pon menoko hosipi.
日が暮れ たところ こんど あの 若い 娘 帰る

日が暮れる頃にあの若い娘が帰って来ました。

イポロ クルクシ カネ ヒネ
iporo kurkus kane hine
その顔色 影が射し も して

顔色が曇っていて

ホシピ ヒネ エク イネ… オラ スイ
hosipi hine ek _hine... ora suy
帰っ て 来 て こんど また

帰って来てまた

ピリカ スケ キ ヒネ イイペレ カ キ ヒネ
pirka suke ki hine i=ipere ka ki hine
おいしい 料理 をして (私に)食べさせも して

上手に料理を作って私に食べさせ

75 イペ オカ アン アクス イタンキ フライエ ヒネ
ipe oka an akusu itanki huraye hine
食事 が終わっ たところ お椀 を洗っ て

食事が終わり椀を洗って

オラ ウアシレ カ キ ルウエ ネ ヒネ
ora upsire ka ki ruwe ne hine
こんど 伏せ も する こと であって

伏せて置くと

オラ エネ ハウエアニ。
ora ene hawean _hi.
こんど このように 言った

このように言いました。

“タン オツカイポ
“tan okkaypo
これ 若い男性

「人間の若い方

イタカン チキ エイヌ カトウ エネアニ。
itak=an ciki e=inu katu ene an _hi.
言う(私) したら (あなた)聞く 次第 このような こと

私の言うことをよく聞いてください。

- 80 アシヌマ アナクネ ネプ アイヌ アネ ルウエ カ
 asinuma anakne nep aynu a=ne ruwe ka 私は人間ではないのです。
 我こそ は 何 人間 (私)であること も
- ソモ ネ カトウ アナク エネ アニ。
 somo ne katu anak ene an _hi.
 しない そのわけ は こうである
- リクン カント タ イセポ マツネポホ
 rikun kanto ta isepo matnepoho 天の国のウサギの神の娘が
 天の 国 に ウサギ の娘
- アネ ヒネ アナン ルウエ ネ ア プ
 a=ne hine an=an ruwe ne a p 私であって
 (私)であって いる(私) こと だった が
- カムイ オルン インカラン コロ
 kamuy or un inkar=an kor 神の国を見ても
 神 の所 に 見る(私) ながら
- 85 アヤイコトムカ プ シネ クル カ イサム。
 a=yaykotomka p sine kur ka isam.
 (私)ふさわしい 者 一 人 も いない
- アイヌ オルン インカラ コロ
 aynu or un inkar kor 人間の世界を見ると
 人間 の所 を 見る と
- エアニ パテク アヤイコトムカ カ タ オラ
 eani patek a=yaykotomka ka ta ora あなた だけ (私)ふさわしい 上 に こんど
 あなた だけ (私)ふさわしい 上 に こんど
- エケウトウム ピリカ
 e=kewtumu pirka 心も美しく
 (あなたの)心 美しい
- エコロ シレトク ネ ヤ アイコオヨイセ⁶ ワ
 e=kor siretok ne ya a=ikooyoyse wa 容姿も立派なので好きになりました。
 (あなたの) 美貌 で も (私)心ひかれ て
- 90 オラ エカン マ
 ora ek=an _wa そこでここへ来て
 こんど 来る(私) して
- タア エトウラ ノ アナン ルウエ ネ コロカ
 taa e=tura no an=an ruwe ne korka このように一緒に暮らしていたのですが
 こう (あなたを)伴っ て 暮らす(私) の だ けれど
- ネウン カ ネ エマチヒ ネ アナン ヤクン
 neun ka ne e=macihi ne an=an yakun 妻になったならば
 どうに も その (あなたの)妻 に なる(私) ならば

6 神が神の国に気に入った相手がおらず、人間の異性を好きになるというのは散文説話で神と人が関わりを持つ理由としてよく見られるものである。

イセポ ポ アコロ ヤクン
isepo po a=kor yakun
ウサギ の子 (人)持つ ならば

ウサギの子をもうけて

イセポ マツ エコロ セコロ
isepo mat e=kor sekor
ウサギ 妻 (あなたを)持つ と

ウサギの嫁をもらったと

95 コタン オルン ウタラ ハウエオカ ワ
kotan or un utar haweoka wa
村 の所 の 人たち 言う して

村の人たちが言って

ア… ミナレ クニ
a... minare kuni
笑われる と

笑われるのが

アエランポキウエン クス
a=erampokiwen kusu
(私)かわいそうに思う ので

気の毒なので

エマチヒ ネ アナク アナン カ ソモ キ コロカ
e=macihi ne anak an=an ka somoki korka
(あなたの)妻 に は なる(私) も しない けれど

妻にはなりませんでした。

エパロオシケ ポカ アキ ワ
e=parooske poka a=ki wa
(あなたの)世話をする だけでも (私)し て

あなたの世話だけをして

100 アヤイコトウヤシ クス エカン マ
a=yaykotuyasi kusu ek=an _wa
(私)思いを遂げる ために 来る(私) して

思いを遂げるためにやって来て

エカラシキ⁷ コロ アナン ルウエ ネ クス
ekaraski kor an=an ruwe ne kusu
もったいない と 暮らす(私) こと だ から

もったいなく思いながら暮らしていたのです。

オラ タネ オンネアン。⁸
ora tane onne=an.
こんど もう 年を取る(私)

私はもう年を取り

カムイ オルン アラパアン ルスイ クス
kamuy or un arpa=an rusuy kusu
神 の所 に 行く(私) したい ので

神のところに帰りたいのです。

カムイ オルン アラパアン オカ タ ネ ヤッカ
kamuy or un arpa=an oka ta ne yakka
神 の所 に 行く(私) 後 に で も

神のところに私が帰った後

105 ネイ ワ ネ ヤ ピリカ ワ オケレ ポン メノコ
ney wa ne ya pirka wa okere pon menoko
どこ から だ か とても美しい 若い 娘

どこからかきれいな女性が

7 イカラシキ ikaraski 「もったいない」。ここではエカラシキ ekaraski と言っているように聞こえる。

8 ウサギなので人間より寿命が短いということだろう。

- ナニ エク ワ エパロオスケ ナンコロ
nani ek wa e=paroosuke nankor
すぐ 来 て (あなたの)世話を する だろう
- クス オラ… カ キ オラ…
kusu ora... ka ki ora...
なので こんど も する こんど
- サケ エカラ ヤクン
sake e=kar yakun
酒 (あなた)作る ならば
- ニツネ サケ ニツネ イナウ アニ
nitne sake nitne inaw ani
粗末な 酒 粗末な 木幣 で
- 110 ‘リクンカント ウン イセポ トノ アノミ ナ’ セコロ
rikunkanto un isepo tonon a=nominasekor
天の国 の ウサギ 神 (私)祭り ます と
- エハウエアン コロ イヌラツパ ワ
e=hawean kor i=nurappa wa
(あなた)言っ て (私を)供養する して
- イコイチャラパ ワ イコレ ヤクン
i=koicarpa wa i=kore yakun
(私を)供養し て (私に)くれる ならば
- ネ ポカ カムイ オツ タ
ne poka kamuy or_ ta
それ だけでも 神 の所 で
- アヤイカムイネレ クス ネ ナ”
a=yaykamuyner kusu ne na”
(私)神格を高められ ます よ
- 115 セコロ ハウエアン ワ エアラキンネ
sekor hawean wa earakinne
と 言っ て 本 当 に
- イヨクンヌレアナ… ルウエ ネ ア プ
iyokunnure=an a... ruwe ne a p
驚く(私) こと だ っ た が
- オラ… コロ ホツケアン ルウエ ネ ア プ
ora... kor hotke=an ruwe ne a p
こんど ながら 眠る(私) こと だ っ た が
- ニサツタ ネ クンネイワ… アクス
nisatta ne kunneywa... akusu
翌日 の 朝 すると
- 120 スイ トウナシノ ホプニ ヒネ スケ ヒネ
suy tunasno hopuni hine suke hine
また 早くに 起き て 料理し て
- すぐにやって来てあなたの世話をしましょう
- から
- 酒をつくれたならば
- 粗末な酒、粗末な木幣で
- 『天の国のウサギの神を祭ります』と
- 言って私を供養して
- 供物を供えてくれたならば
- それだけでも神の国で
- 私は神格を高められるのですよ」
- と言うので本当に
- 驚いたのです。
- それから眠ったのですが
- 翌朝になるとその女性は
- また早く起きて料理をして

イイペレ カ キ。
i=ipere ka ki.
(私に)食べさせ も する

私に食べさせてくれました。

イタンキ フライエ カ キ オカ アン アクス
itanki huraye ka ki oka an akusu
お椀 を洗い も し 終わっ たところ

椀を洗った後で

オラ イアラソケ⁹ タ アン ア プ
ora i=arsoke ta an a p
こんど (私の)反対側の座 に い た が

いろりをはさんで対座していたのですが

オラ ポロ オンネ イセポ ネ ヒネ
ora poro onne isepo ne hine
こんど 大きな 年寄り ウサギ になっ て

大きな年寄りウサギになって

テレケ テレケ コロ ソイエネ ヒ クス
terke terke kor soyene hi kusu
びよんびよん跳ね ながら 外に出る ので

跳ねて外に行ってしまいました。

125 ナニ オシ ソヨシマ アクス
nani os soyosma akusu
すぐ 後から 外に出 たところ

すぐに追いかけて外に出ましたが

ネオロ オシマ ヒ カ
neoro osma hi ka
どこ に入る の か

どこに行ってしまったか

アエランペウテク コロ
a=erampewtek kor
(私)わからなく て

わからず

クリヒ ポカ アヌカラ カ ソモ キ コロカ
kurihi poka a=nukar ka somo ki korka
その姿 だけでも (私)見 も しない けれど

姿を見ることはできませんでした。

エネ トウラノ アナヌミ ピリカ
ene turano an=an_humi pirka
こうして一緒に 暮らす(私) 感じ 良い

このように共に暮らすのが心地よく

130 スケ エアシカイ ワ トウラノ アナン
suke easkay wa turano an=an
料理 が上手 で 一緒に 暮らす(私)

料理も上手で

フミ ピリカ プ セコロ ヤイヌアン ワ
humi pirka p sekor yaynu=an wa
感じ いい ものと 思う(私) して

心地よかったのにとあって

アオカラモッテ ア コロカ
a=okaramotte a korka
(私)名残惜しく思っ た けれど

名残惜しかったけれど

9 いろりをはさんで反対側の座。同居する家族と仲睦まじく暮らしているときに親しみを込めて使われる表現。

エネ ネ ヒ カ イサム ノ アナン。
ene ne hi ka isam no an=an.
どう することもない で いる(私)

どうしようもありませんでした。

ラポッケ オラ スイ ネイ ワ ネ ヤ
rapokke ora suy ney wa ne ya
そのうちに こんど また どこ から だ か

そのうちにまたどこからか

135 ピリカ メノコ エキネ
pirka menoko ek hine
美しい 女性 来 て

女性がやって来て

スケ ワ… コロ アン
suke wa... kor an
料理し ながら 暮らす

料理を作ってくれていました。

ラポッケ オラ マツ ネ アコロ ワ
rapokke ora mat ne a=kor wa
そのうちに こんど 妻 に (私)持っ て

そのうちに妻にして

トゥラノ アナン
turano an=an
一緒に 暮らす(私)

一緒に暮らしました。

ラポッケ オラ ナニ サケカラン ワ
rapokke ora nani sakekar=an wa
そのうちに こんど すぐに 酒をつくっ て

すぐに酒をつくって

140 エネ アコヤイライケ ア プ セコロ
ene a=koyayrayke a p sekor
こうして(私)感謝をするの だった と

このように感謝をしているのだからと

ヤイヌアン ヒ クス
yaynu=an hi kusu
思う(私) ので

思ったので

“リクンカント ウン イセポ トノ アノミ ナ”
“rikunkanto un isepo tonon a=nomi na”
天の国 の ウサギ 神 (私)祭る よ

「天の国のウサギの神を祭ります」

セコロ ハウエアナン コロ
sekor hawean=an kor
と 言う(私) ながら

と言いながら

ニツネ シラリ ニツネ イナウ
nitne sirari nitne inaw
粗末な 酒粕 粗末な 木幣

粗末な酒粕、粗末な木幣

145 セコロ ハウエアナ コロカ
sekor hawean a korka
と 言っ た けれど

と言っていました

ピリカ イナウ ピリカ サケ アニ
pirka inaw pirka sake ani
良い 木幣 良い 酒 で

上質の木幣と酒で

アオカノミ⁽¹⁰⁾ コロ アナン ラポッケ
 a=okanomi kor an=an rapokke
 (私)供養し ながら 暮らす(私) うちに

祈っているうちに

イオシ エク ポン メノコ エウン カ
 ios ek pon menoko eun ka
 後から 来た 若い 娘 に も

後から来た女性にも

ポコロ カ アキ ワ
 pokor ka a=ki wa
 子供を持ち も (私)し て

子供ができて

150 ピリカ ウヘコツパ⁽¹¹⁾ アキ コロ アナン アイネ
 pirka uhekotpa a=ki kor an=an ayne
 良く 連れ添って暮らす (私)し て 暮らす(私) うちに

仲良く暮らしました。

タネ ヤイカタ カ オンネアン クス
 tane yaykata ka onne=an kusu
 もう 自分 も 年を取る(私) ので

今はもう年を取ったので

アポ ウタリ ネイ パクノ オカ ヤッカ
 a=po utari ney pakno oka yakka
 (私)の子たち いつ までも 暮らす しても

子供たちにいつまでも

イセポ トノ オイラ ソモ キ ノ
 isepo tono oyra somo ki no
 ウサギ 神 を忘れ ない で

ウサギの神に忘れずに

コイチャラパ コイノミ ワ イコレ ヤク ピリカ ナ
 koicarpa koinomi wa i=kore yak pirka na
 供養し 祭っ て (私)くれると いい よ

祈りなさい

155 セコロ シネ オツカヨ ポホ ウタラ
 sekor sine okkayo poho utar
 と ある 男性 その子 たち

と、ひとりの男が子供たちに

コイタクムイエ コロ オンネ ルウエ ネ
 koitakmuye kor onne ruwe ne
 に言い置い て 死ぬ こと である

遺言して死んで行きました

セコン ネ。
 sekor_ ne.
 と 言う

とさ。

10 okanomi 供養する、霊を送って拝む、弔ふ [久 600]

11 単数形はウヘコテ uhekote 「連れ添って暮らす」。

アイヌ民族博物館 民話ライブラリ 2

上田トシの民話 2

発行日 2015年2月28日

編集・発行 一般財団法人 アイヌ民族博物館

〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2-3-4

TEL 0144-82-4199 FAX 0144-82-6121

本書は平成26年度公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の研究・出版助成（アイヌ文化関連出版助成）の成果である。